

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401780		
法人名	株式会社 Human-system Japan		
事業所名	グループホーム 自由の大地		
所在地	札幌市手稲区稲穂3条2丁目11番7号		
自己評価作成日	平成24年10月18日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/2011_022_kan1=true&JigyosyoCd=0170401780-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲の高台に位置し、遠くは石狩湾や暑寒別岳が望め景色(夜景も)のすばらしく、環境豊かな施設です。そんな環境の中で、介護保険制度の理念を下に、地域に溶け込んだ穏やかで楽しい生活を過ごして頂けるように職員一丸となって努力しています。また、ヘルパーの実習生を受け入れている施設でも有り、認知症に対する対応の仕方、実習生に対してしっかりと指導出来るよう社内研修に力を入れております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 24年 10月 30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム自由の大地は、手稲駅からJRバス1本で行ける高台に位置し、2階建ての建物は広く清潔で、居間の広い窓からは街並みを見渡すことができます。トイレ、洗面所、浴室が広くて使い易く、エレベーターも設置されているなど設備が整っています。地域との付き合いが盛んで、町内会行事に積極的に参加し、近所の方に野菜をいただいたり、敬老の日にはホーム主催のバーベキューを行い近隣の方を招待しています。馴染みの人や場との関係の継続に力を入れており、利用者の知人・友人の訪問を歓迎しています。熱心な管理者のもとで、職員は、利用者の表情やさりげない仕草から思いや意向を把握する努力をしています。協力医療機関の医師による月2回の往診と24時間連絡可能な体制が整っており、歯科医の往診と歯科衛生士による口腔ケアも毎週あり通院支援も行なっています。利用者は、家族の写真や馴染みの家具を持ち込んだ居心地の良い居室で毎日の生活を楽しくしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を事務所に掲示し実践するよう日々努力している。	全職員で話し合って作り上げた地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を共有空間に掲げています。2年前に、更に理念を理解しやすくする目的で、内容を3つに分類し説明したものを作成し、パンフレットに添えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練、ホームの行事への参加を町内会等と呼びかけたり町内会主催の行事に参加させていただいている。	町内会行事のバーベキュー、ゴミ拾いなどに参加したり近所の方に野菜をいただいたりしています。敬老の日にはホーム主催のバーベキューに町内会役員や近隣の方々を招待しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症勉強会や救急救命等貢献できる活動を地域住民、町内会に発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催とし、より多くの報告、話し合いがなされ、サービスを向上させるべく努めている。	町内会役員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族等に参加していただいています。家族には訪問時に声掛けして参加を呼びかけています。毎回議事録を作成し依頼があればいつでも開示できる状態ですが、全家族に配付はしていません。	玄関を入った所に意見箱や運営規程等を備えたスペースがあるので、利用者や家族がいつでも見られるように議事録を備えることを期待します。また、運営推進会議での議題や意見を、毎月のお便りや手紙等で募集することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区が開催する「管理者会議」・「ふれあいフェスティバル」等に必ず参加しいつでも相談、協力出来る体制を築いている。	市・区主催の管理者会議には管理者が、「ふれあいフェスティバル」には代表者が毎回参加し、市・区の担当者と意見交換しています。また、事業所に担当の方に来ていただき利用者も交えて個別に相談をすることもあります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファレンスを開き、冊子などを用いて理解を深めている。玄関の施錠は夜間帯のみ行っている。	職員全員が委員になっている「身体拘束廃止委員会」でマニュアルを作成し、2か月に1度、カンファレンスで身体拘束廃止について話し合い理解を深めています。玄関は日中は施錠せず、センサーで人の出入りが分かるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、言葉の虐待防止について理解し、注意、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等により学ぶ機会を持つ職員もいるが、代表が全体会議の中で勉強会を開き学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際は管理者が丁寧に説明し、理解と同意を得ている。また、退所の契約解除の際も同様に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情箱を用い、利用者や家族の意見を汲み取るよう努めている。	家族が頻繁に訪問してくれるので、管理者がその都度声掛けし、要望や意見を聞いています。利用開始時には家族が様子を見るために訪問回数も多くなり、管理者は訪問の都度利用者の状況を細かく報告して家族に安心してもらっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議、フロア会議の中で活発な意見交換がなされている。	職員は、身体拘束廃止、レクリエーション、運営推進、食材、備品等の各種運営に関わる委員会に所属して活動しています。また、合同会議、フロア会議以外にも随時ミニカンファレンスが行われており、年1回の管理者による個人面談もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加を積極的にできるよう支援している。休みも希望通り取れている。処遇改善交付金を利用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を用い職員の知識・技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に管理者会議やグループホーム協議会に出席している。昨年は手稲区のほかのグループホームとの職員交流会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、今まで利用されていた他事業所、医療機関、家族との連携、安心できる関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いを大切にし、要望を傾聴し、面会時にも意向を伺い、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話し合い、本人に合ったサービスを提供できるよう支援している。諸手続きに関しても出来る限りのサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、敬意と尊敬の意を持ち、出来ることは積極的に行っていただき、出来ないことは支援し支え合う生活を送っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーション、行事に参加を呼び掛け楽しんだり、面会時、その他に本人の状況、生活をお伝えし、共に支援体制を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、面会、外出等、ご本人の好まれている事を把握するよう努め、支援している。	利用者の知人・友人の訪問を歓迎しています。また、家族が迎えに来て法事やお墓参りに出かけ、利用者は外食、買い物、ドライブなども楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレクリエーションを行う事で、利用者間の円満な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方のお見舞いや訃報の際は葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの要望を聴き、本人の希望が叶えられるよう努めている。	利用者の生活歴や情報をアセスメント表に蓄積しています。アセスメント表は6ヵ月毎に見直しされています。職員は、利用者の表情やさりげない仕草から思いや意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・親戚からの情報を得て環境の変化にも対応できるように基本情報を回覧している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を把握し、したい事、できる事をしていただくよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医療機関から要望、意見を聴き、職員間で話し合い計画作成している。状態の変化が見られた時はカンファレンスを設け作成している。	モニタリング、サービス担当者会議を3ヵ月ごとに実施し、短期3ヵ月、長期6ヵ月で介護計画を見直ししています。状況が変化した際は、見直し期間にかかわらず、その都度見直ししています。介護計画は、利用者・家族に説明して同意の署名捺印をいただいています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画、実行、ケアする上での問題点等、その都度話し合っている。記録の書き方の勉強会も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、病院の送迎、買い物の同行・代行を行い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの音楽会・消防等の地域資源と協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による月2回の往診と24時間連絡可能な体制を取っている。また、歯科往診と歯科衛生士による口腔ケアも毎週のように行っている。	現在は、全員が協力医療機関の内科医師の訪問診療を受けていますが、従来のかかりつけ医を選択するのも自由です。内科以外の医療機関にはホームで通院支援をしています。医療情報は「受診記録綴」で全職員が共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を毎週受けており、日常の気づき、変化について気軽に相談出来ている。緊急時の対応もすばやくできる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡を密にして、書類を整え早めに対応できるよう心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にホームでの対応出来る最大のケアについて説明している。また、かかりつけ医とも密に連携を図っている。	利用開始時に、利用者・家族に「グループホーム利用者が重度化した場合の指針」「看取りに関する方針」の文書を示して説明し同意書に署名捺印を得ていますが、以前まで常勤していた看護師が現在は不在なため指針内容の変更を検討中です。	現状では看護師が常勤していないため、指針にあるホームでの看取りは困難な状況ですが、管理者が看取りの重要性を認識し、マニュアル作成や職員の外部研修など積極的な取り組みをされているので、更なる検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の協力を得て救急救命の研修を行なっている。また、緊急時には、わかりやすい緊急時マニュアルを作成し、見やすい場所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防との協力を得て、避難訓練を行っている。その時には地域の方に声かけし参加していただいている。今後は震災時の訓練も行いたいと考えている。	消防署の協力のもとに、昼・夜間対象の避難訓練を行い、地域の方々に参加していただいています。災害時の備品も用意され、救急救命訓練も定期的に行われています。11月に行われる地域を含む防災懇談会にも参加予定です。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議等で尊厳の保持について話し合い、利用者に合わせた対応をしている。	利用者を人生の大先輩として尊敬の念を持ち、「名字」か「名前」にさんづけを基本とした呼びかけをしています。個人情報のファイルは事務所で安全に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすいよう声かけし、行えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活においては一緒に行っていたいが、本人の意思を尊重して自分のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度、理・美容師により散髪、顔剃りをしている。化粧品も同行して買いに行き、希望に添えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食卓につき、談話しながら同じ食事を食べている。配膳や片づけも出来る方には参加していただいている。	食材委員が献立を考え、お誕生会には利用者の好みを聞いて特別メニューを用意しています。毎週水曜日をカレーの日として皆がその日を楽しみにできるような工夫をしたり、年2回の外食では回転寿司や温泉施設の食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を担当している職員が栄養バランスを考えメニューを決めている。食事量、水分量はトータルを記載し共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、見守りにて口腔ケアを実施している。歯科衛生士から個別の指導をしていただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレ誘導をしている。排泄のサインを注意深く見守り誘導を行い汚染しないようにしている。	排泄チェック表を活用しながらトイレ誘導し、全員がトイレで排泄できるように支援しています。利用者が恥ずかしい思いをしないように、職員は小声で話し掛け誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳性品の摂取に努めている。体操、廊下の歩行などの運動を働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、しまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は職員の配置により、昼間に限られる。順番に入っていただいているか、希望に添えるように努めている。	毎日、13:00～15:00の時間帯で週3回を目標に入浴してもらっていますが、入浴時間、入浴回数とも希望に応じて対応しています。同性介助で対応しており、入浴を拒む利用者には上手に誘導し全員に入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し、生活のリズムを整えるように努めている。夜間は室温調整や照明調整を行い良眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品説明書をファイルにし、職員が内容を把握できるようにしている。内服確認や全職員がチェックできるシステムも確立している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望される事、出来る事を把握し、お手伝いやゲーム等、喜ばれる事が多くなるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、祭りへの参加等、季節や希望に応じて外出を支援している。歩行困難な方も、車椅子、介護車両にて支援している。	天候の良い時期には近くの公園などに毎日でも散歩できます。外出行事では、お花見に小樽の埠頭まで足を伸ばし、夏祭りや紅葉を見に行ったりしています。また、個別の外出では、靴や化粧品を買いに行ったり、食材の買い物に希望者と一緒に出かけたりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお預かりしている場合が多いが、買い物時はお渡しして支払が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可の取れている所には自由に電話を掛けている。また、毎年年賀状も書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはゆったりとくつろげるよう配慮している。壁などは季節感のある花や飾りで快適に過ごせるようにしている。	ホームが高台に位置していることから、居間の広い窓からは街並みを見渡せます。周囲は緑が多く、室内には明るい光が差し込んでいます。建物全体が清潔で、トイレ、洗面所、浴室も広くて使い易く、エレベーターも設置しているなど設備が整っています。季節感のある装飾や利用者の作品が配置され居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全ての利用者が共有リビングで自分の居場所を持っている。廊下の椅子にて歩行の運動、休憩所として使っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使っていた馴染みの家具等を置き、居心地良く過ごしていただいている。	居室のドアには、利用者の写真をアレンジした表札が掲げられており、居室内は換気も十分に掃除が行き届き清潔に保たれています。利用者は家族の写真や馴染みの家具を持ち込み、居心地の良い空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをを用い、安全な立ち上がり、移動、歩行ができるよう支援する。		